

平成26年度質問紙調査項目の検討について(案)

1. 基本方針

- 調査項目は、教科に関する調査と併せて学力や学力の規定要因を把握・分析する観点から検討
- 児童生徒や学校の負担を考慮し、調査項目は真に必要なものに厳選

調査項目は、教科に関する調査を補完して学力を把握する視点、教科に関する調査結果との相関等を検証することにより学力の規定要因を分析するための視点から検討する。

児童生徒や学校の負担を考慮し、調査項目の分量は例年と同程度又はそれ以下とし、真に必要なものに厳選する。

特に、児童生徒質問紙については、平成25年度は分冊化して実施したが、平成26年度は、平成24年度までと同様、全児童生徒共通の1冊子での実施を予定しているため、質問項目を大幅に削減する必要がある。

その際、既存項目については、政策的重要性、文部科学省における活用の見通し、分析を踏まえた改善の必要性等の観点から、調査の必要性や実施頻度、問い方等について検討を行う。

2. 今後の検討スケジュール

具体的な調査項目については、今後、分析・活用等ワーキンググループにおいて検討する。

分析・活用等ワーキンググループにおいて決定した内容については、専門家会議へ報告する。

【参考】 質問紙調査の項目数の推移

		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
小学校	児童	99	75	77	77	77	86	82-83 ※1冊子あたり
	学校	105	97	98	93	89	99	118
中学校	生徒	101	75	77	77	77	86	82-83 ※1冊子あたり
	学校	105	95	95	92	87	96	108